

89 誌上発表 喜多村直寛『黄帝内経素問講義』における 押韻の指摘について第二報

澤谷 直子

日本鍼灸研究会

本研究は喜多村直寛の『黄帝内経素問講義』の押韻指摘の具体的な在り方を解明するものである。底本には『東洋医学古典注釈選集』（オリエン特出版社、1987年）所収本を使用し、江有誌著『先秦韻読』、王念孫著『素問新語易林合韻譜』、錢超塵著『内経語言研究』を参照した。『素問新語易林合韻譜』は、日本医史学雑誌第55巻第3号（2009）所収の林克論文「王念孫『素問新語易林合韻譜』と錢超塵『素問合韻譜』」を参照した。

『黄帝内経素問講義』全巻の押韻指摘は118箇所、『先秦韻読』（以下『先』と略）は432箇所、『素問新語易林合韻譜』（以下『合』と略）は365箇所である。三書のうち『黄帝内経素問講義』のみに押韻指摘が見られる篇は、経脈別論、刺熱、痺論であった。以下、同一経文で押韻の指摘が異なる事例につき、その詳細を述べることにする。（01-07b04とは巻一第七葉裏四行目を指す）。

① 01-07b04の真・神（真韻）は、『先』と『合』では精（耕韻）、真・神（真韻）に、『内経語言研究』（以下『内』と略）では真・神（真韻）に指摘。

② 01-32b10「按此一段隔句押韻」の平・刑・平・清（耕韻）、明（陽韻）、興（蒸韻）は、『先』では平・寧・刑・平・清（耕韻）、明（陽韻）に、『合』では平・寧・刑・平・清（耕韻）、明（陽韻）、興（蒸韻）に、『内』では平・明・寧・刑・平・清（耕韻）に指摘。『内』では「明」を陽韻ではなく耕韻とする。

③ 01-33a01「此段隔句押韻」の匿・意・得（職韻）は、『先』では匿・意・得（職韻）に、『合』では匿・意・得（職韻）、奪（月韻）に指摘。

④ 03-62a06「劉云、極、脈、惑、則、得、国、並押韻」（※劉は多紀元簡）の、極・惑・則・得・国（職韻）、脈（錫韻）は、『合』では極・惑・則・得・国（職韻）、脈（錫韻）に指摘。『先』無し。

⑤ 04-01a07の且・散（元韻）進・勻（真韻）は、『合』では且・散・乱（元韻）、成（耕韻）に、『内』では且・散・乱（元韻）進・勻（真韻）に指摘。『先』無し。

⑥ 05-02a02「按此段押韻」の光・行・陽・方（陽韻）は、『先』では行・陽・方（陽韻）に指摘。『合』無し。

⑦ 06-06a07「按叫節、及下文、並押韻」の陽・長・量・方（陽韻）と伐・減・達・缺・絶・竭（月韻）は、『先』では伐・減・達・缺・絶・竭（祭韻）に指摘があり、月韻でなく祭韻とする。『合』無し。

⑧ 06-26a06「案此節、押韻」の形・経・形（耕韻）は、『先』では形・経・情（耕韻）に、『内』では形・冥・経（耕韻）に指摘。句読の違いに起因か。『合』無し。

⑨ 06-27a09の原（元韻）、論・存（文韻）は、『合』では神・神・神（真韻）、聞・先・昏・雲（文韻）、見・言・原（元韻）、存（文韻）に、『先』では神・神（真韻）、聞・先・昏・雲・存（文韻）、言・原（元韻）に、『内』では神・神・先（真韻）、聞・昏・雲・存（文韻）、言・原（元韻）に指摘があり、『内』では「先」を文韻でなく真韻とする。

⑩ 06-39a08「按此節、並押韻」の行（陽韻）、勝（蒸韻）、正・命（耕韻）は、『合』では行（陽韻）、勝（蒸韻）に指摘。『先』無し。

⑪ 10-01b05の深・沈（侵韻）、傷（陽韻）と壅（東韻）、得・賊（職韻）は、『先』では深・沈（侵韻）、理（之韻）と道（幽韻）、傷（陽韻）と壅・従（東韻）、得・賊（之韻）、蔵・病（陽韻）に、『合』では理（之韻）と道（幽韻）、傷（陽韻）と壅・従（東韻）に指摘。

⑫ 12-37b09「按通篇亦押韻」の海・晦（之韻）は、『合』では道・葆・咎・巧・道（幽韻）、起・理・市・海・晦（之韻）に指摘。『先』無し。

⑬ 12-64a08「案此節押韻」の明・行・陽・明・章（陽韻）は、『先』では常・陽・行・卿・明・行・陽・明・章（陽韻）に、『内』では常・陽・行・卿・明・行・陽・明・章（陽韻）に指摘。『合』無し。